

2022年07月26日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【「夏休み相場」は、先送り】

例年ならば、7月も下旬となれば、典型的な「夏休み相場」のはずだ。

通常の「夏休み相場」とは、市場参加者が極端に減少して、値動きが緩慢になり、取引量も少なくなって、やる気のない相場つきになることを指す。

ところが、今年(2022年)の7月は、主要各国が、金融政策の変更を発表する可能性があるので、多くの市場参加者は、いつものように「夏休み」を取ることが出来ない。

つまり、市場参加者は、極端に少なくなっていない、ということ。

++++
++++

今月(2022年7月)に発表されたオーストラリア、日本、そして、ヨーロッパの金融政策の変更を振り返ってみよう。

++++

今月の初旬(2022年7月5日)、オーストラリアの中央銀行であるRBA(Reserve Bank of Australia)は、政策決定会合で、豪ドルの政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートの誘導目標を0.5ポイント引き上げ1.35%にする、と決定した。

この豪ドルの政策金利引き上げは、マーケット(外国為替市場)の事前予想通りで、サプライズは無かった。

++++

先週(2022年7月21日)の日銀金融政策決定会合では、大規模な金融緩和策を維持し継続することが決定された。

黒田日銀総裁は、会見で、

「金利を少し上げるだけで円安が止まるとは考えられない。金利だけで円安を止めるためには、大幅な金利引き上げとなり、それは経済に大きなダメージになる」と述べた。

++++

先週（2022年7月21日）のECB理事会では、政策金利の0.50%引き上げを決定した。

先月（2022年6月9日）のECB理事会では、「7月理事会で政策金利を0.25%引き上げる意向」と表明しており、大幅な利上げを断行した。

そして、ユーロ圏国債市場の分断化を阻止するツールを発表した。

++++
++++

そして、明日（2022年7月27日）、米国の金融政策の発表が予定されている。

明日（2022年7月27日）のFOMCでは、米ドルの政策金利の引き上げが予想されている。

大方の予想する利上げ幅は、0.75%。

一時期には、1.00%の大幅な引き上げを予想する傾向もあった。

しかし、米国の経済指標が順次発表されて、その中には景気減速を示すものもあったために、市場の事前予想も、穏やかな数値に変化した、と考えます。

++++
++++

主要国が、金融政策を変更すること、ないしは、金融政策を変更しないことを、この時期（2022年7月）に発表しているのだから、簡単に「夏休み」を取る訳にはいかない、というのが本音だろう。

++++
++++

（2022年07月26日東京時間14：55記述）